

守山市立図書館『本の森』改築基本設計・実施設計業務 公募型プロポーザルにかかる審査講評

全体として、提案者それぞれが守山市の特性を生かした個性のある良い提案をいただいた一方で、建築コスト面や管理運営面等について課題が見受けられることから、本委員会では委員全員が、それぞれの提案には長所と短所が共存するとの共通認識のもとで今回の審査を行った。

1 各提案に対する評価の概要

本委員会は、第一次審査を通過した7者から提出された技術提案書の内容および公開プレゼンテーションの内容、プレゼンテーション後のヒアリングをもとに、慎重な審議の上、評価項目および評価点に沿って審査を行い、本プロポーザルにおける優秀者(契約予定者)として株式会社隈研吾建築都市設計事務所を選定した。

各提案に対する本委員会における評価や意見の概要は、次のとおりである。

(1) 優秀者(契約予定者)の評価等の概要

◆受付番号12番：株式会社隈研吾建築都市設計事務所

「目田川」だけでなく「くすのき通り」に対しても開きながら、周囲と施設との接点を最大限確保し、人々を引き込むように外に開かれ、散策しながら本と人との交流を生み出す「みち」のような図書館の提案である。目田川とくすの木通りの両方に開く敷地の捉え方と、明るく快適でぬくもりのある大きな吹き抜けのある図書館エリアに大きな特徴がある。

小さいボリュームで分節された外観は、図書館らしいくないという見方もある一方で、ヒューマンスケールの守山市の街並みとの調和に配慮されている点や、「市民のための家」のように感じられる点で評価できる。

敷地の使い方については、目田川とくすの木通りの角地から人を引き寄せられる仕掛けにされているとともに、駐車場からのアプローチにも配慮されている。

図書館エリアの1階は、カフェや「だんだんテラス」、「キッズコーナー」等が「みち」のような「一般閲覧コーナー・雑誌・新聞コーナー」に連結しているため、「みち」を歩いていると、子どもから大人まで多様な図書館の風景が次々と現れてくる。

また、「みち」は市民活動エリアにもつなげられており、公園的な場所として提案されている。一方で2階のコーナーは、しっかりと本を読みたい人や本を探したい人に利用しやすいよう計画されており、評価できる。

図書館エリアと市民活動エリアの間に配置されている「木漏れ日広場」については、市民活動エリアで発生する音など図書館エリアへの影響を緩衝するように配置され、

ある程度内部空間化すれば、市民活動エリアと図書館エリアの両エリアの一体性も確保できる。

本提案は、以上の諸点において、守山市にふさわしい最適な提案と評価できる。

一方で、「みち」のような1階の一般閲覧コーナーについて、書架の設置スペースの確保や探しやすい書架の配置に課題がある。また、「みち」を実現するために南側民家やほほえみセンター側へ建物がよりすぎている点や、維持管理方法の点で課題はある。

(2) 次点者の評価等の概要

◆受付番号 15 番：株式会社飯田善彦建築工房

周辺環境に関係する3つの広場と、それに呼応して三方に緩やかに伸びる大きなトライアングル形状の建物を敷地に配置することで、施設と周辺環境が繋がり、敷地全体を人々の集う交流拠点にしようとする提案である。

トライアングルの形状により、近隣の住居などへ自然と配慮されるとともに、中央に管理室を配置し、のびやかな閲覧コーナーを各辺に配置するなど、それぞれの機能や諸条件が建物形状と齟齬なく配置されている。また、施設計画も明確でわかりやすく、設計者の力量が随所にあらわれており、高く評価できる。プレゼンテーションからは設計者の知識や経験、能力を感じさせられた。

川側に向いて、川を見ながら本を読む、木に囲まれながら本を読むなど、限られた敷地の中でも敷地の特性を生かしながら変化のある図書館エリアが作られている。また、目田川に開いた「川沿い広場」、市民の来訪を受け止め催事が開催できる「エントランス広場」、裏の木々が植えられている「樹の広場」など多面的な空間により敷地を再構成し、市民のためにより豊かな場所を作ろうとしている点が評価できる。

また、敷地全体として木が多く配置され本の森のイメージも十分に感じられる。

上記のように評価できる点がある一方で、目田川のテラスに面した閲覧席の配置方法など、河川に対する開き方が他の案に比べ消極的に感じられる。

敷地全体に配置されるトライアングルを強調した形状は守山市でなくても成立するという見方や、建物中央のトップライトについて提案書にある「柔らかい拡散光を取り込む」ようなイメージが感じられず鋭利的でかたい、という見方もある。

本の配架など職員の管理動線に配慮する必要があることや1階と2階の管理ゾーンが納まるか課題がある。

大空間を構成する屋根や壁面の多くが曲線形状となっていることや、建物全体にわたりガラス窓が多用されていること等から事業費が膨らむことが懸念されるほか、ガラス窓の維持管理方法や空調負荷、天井の布の維持管理等、維持管理の面でも課題がある。

以上の点から優秀者の提案には僅かに及ばないと判断した。

(3) その他提案の評価等の概要（受付番号順）

◆受付番号5番：株式会社三上建築事務所

1階と2階の両方に本が読めるテラスがあり目田川に開放されるとともに、書架で囲まれた空間のシークエンス(連続性)と多様な空間に巡り合うよう計画されている。

1階と2階が平らな床で仕切られているが、中庭がいくつか配置され、分断されることがないように配慮されている。ただし、他の案に比べ、1階と2階のつながりは弱い点に課題がある。

本棚のある空間が少し迷路のようになっており、楽しく感じられる一方、実際に中に入ると自分の居場所がわからなくなり、利用者に不安を与えかねない点が懸念される。

書架のある壁が天井まであり、利用者から見れば、特に7段の下や上の書架について、本を手にするのに難がある。2,800mmの天井高についても少し低いのではないかと思われる。

上記にあげた課題を解消するためには、提案内容を変更することが必要となるが、書架と一体となった構造システムは、計画変更に対して融通が効くかどうかよくわからない点が懸念される。

建物の形状については、方形のユニットで構成されたオーソドックスな建築で、全体としてかたい印象を受けるほか、建築デザインについても、建築の顔がないという印象を受ける点に課題がある。

以上から、全体として、優秀提案・次点提案に及ばないと判断した。

◆受付番号6番：有限会社西沢立衛建築設計事務所

各機能を大きな吹き抜けを中心にスパイラル状に配置することで、本と場所とをつなぎ、また、人が集いやすい施設を実現しようとする提案である。

大きな吹き抜けを介して施設全体が一望でき、多様な図書館の機能や人の動きが見え、自分の位置もわかりやすいなど、全体がわかりやすい建物構成となっているほか、敷地全体に開かれた計画により多様な場が提案されていることは高く評価できる。また、図書館エリアや市民活動エリア等の多様な要素は、吹き抜けを通じて一体となり、全体として魅力的な空間となっている。

プレゼンテーションにおいても設計への真摯な姿勢が感じられた。

一方で、職員が図書を書架に配架する際、階が実質的に3つに分散していることや、一般利用者と同じエレベーターで運ばざるを得ない点について、管理運営の面で大きな課題がある。これらを解消するには階数の削減やスロープでの処理等が考えられるが、下階に多目的室があるため階数を減らすことは難しいと考えられるほか、階段をスロープで処理しようとする建物のコンパクトさが失われる懸念がある。

外壁の表面積が大きいこと、勾配をもった屋根が複雑なこと、ガラスとの取り合いが複雑なこと等の多くの点において、事業費が膨らむリスクもあり、また、ガラスの面積が大きく空調負荷が大きいことも懸念される。

以上から、全体として、優秀提案・次点提案に及ばないと判断した。

◆受付番号 8 番：ケイ・アソシエイツ／安井設計共同企業体

1 階から 2 階の閲覧室に伸びる吹き抜けの特設コーナーは、心地よい空間と言え、全体としても、「本の森」のコンセプトに合った提案である。

守山市内での実績やコスト管理や工程管理の実施体制については安心でき評価できる。

2 階から奥の一般閲覧コーナーに向かうと巡り歩くところがなく、単調で楽しさがないことや、一般閲覧コーナーの面積が小さく窮屈なこと、段差もあり閲覧室内での人の動きが限られている点等が懸念される。

図書館エリアと市民活動エリアの配置にあたり、カフェを図書館エリアから離れた位置に配置しており、図書館の利用者が利用しにくい点に課題がある。

水盤は、ランドスケープのアイデアとしてはイメージがよい提案と言えるが、水質の維持やコストなど維持管理の面で実現可能な案なのか懸念がある。

以上から、全体として、優秀提案・次点提案に及ばないと判断した。

◆受付番号 13 番：株式会社遠藤秀平建築研究所

目田川の流れに呼応した曲線形状の壁により空間を構成し、空間に機能が明確に配置されている。曲線形状の壁は本棚の壁となり、また、くすの木通りからの騒音や西日を遮る壁となっている。図書館の諸室の配置としてはシンプルな提案であり、特に 2 階については、全体としては利用しやすい空間構成となっている点は評価できる。

南側の隣家との間に十分な緑地を設けており、近隣へ十分に配慮している点も評価できる。

敷地などの調査も入念に行われており、計画への思いが感じられた。

一方で、利用度の高い新聞・雑誌コーナーや児童書エリアを含む図書館機能の大部分を 2 階に配置し、ティーンズコーナーを 1 階に配置するなど、図書館としてのあり方に疑問が残る点が懸念される。

提案書に蔵書能力に関する記載がなく、図面からは 38 万冊が入るかどうか確認できなかった。

以上から、全体として、優秀提案・次点提案に及ばないと判断した。

◆受付番号 16 番：東畑建築事務所・ジェイアール西日本コンサルタンツ設計共同企業体

建物の一部を「FLAP」することで、目田川や周辺の環境を取り込む図書館の提案で

ある。「FLAP」や斜面により目田川沿いに新たな空間が提案されている。既存の杭を利用するなど、具体的な経費削減案も示され、総合的な技術力が確認できる。

計画条件に対して全体として忠実に提案している点は評価できる。

一方で、敷地の計画条件を詳細に詰めるなかで、内部空間が窮屈な提案になっており、図書館としての機能が十分に確保されていない点や、市民活動エリアが南側の民家に寄りすぎている点など、配置面で懸念される点の課題がある。

個々のエリアはよく考えられているが、絵本の塔周辺の階段等はバリアフリーへの対応が不十分なことや、BDSが多く管理しづらい点など、ちぐはぐな印象を受ける。

建築デザインについても、目田川沿いには十分に配慮しているが、駐車場側のエントランスゾーンが目田川の表に対してあまり配慮されておらず裏の空間となっていることや、コンセプトの核となっている「フラップ」のよさが十分に理解できない点に課題がある。

以上から、全体として、優秀提案・次点提案に及ばないと判断した。

2 審査委員会の総評

全国から本事業の趣旨に共鳴する16者から優れた提案が寄せられました。まずは提案者の皆様に深く感謝いたします。

各提案者からの提案は、それぞれに、本市における図書館のあり方や目田川を含む周辺環境との関係を鋭く問いかけており、新たな図書館を整備するにあたり、貴重な示唆を得られることとなりました。

本審査委員会においては、各委員がさまざまな専門的な観点から審議を重ね、優秀者を本事業の設計者として最適なものとして評価しました。

一方で、優秀者の提案内容については、書架の設置スペースの確保や探しやすい書架の配置、周辺への配慮、維持管理への配慮など、課題も多く指摘されています。今後、優秀者は、設計業務の実施にあたり、市民とのワークショップや図書館職員をはじめとする関係者等との十分な協議を通じて上記の課題も含めて再度課題を整理しなおし、よりよい設計案に練り上げられることをここに要望するものです。

平成27年12月4日

守山市立図書館設計審査委員会
委員長 布野修司